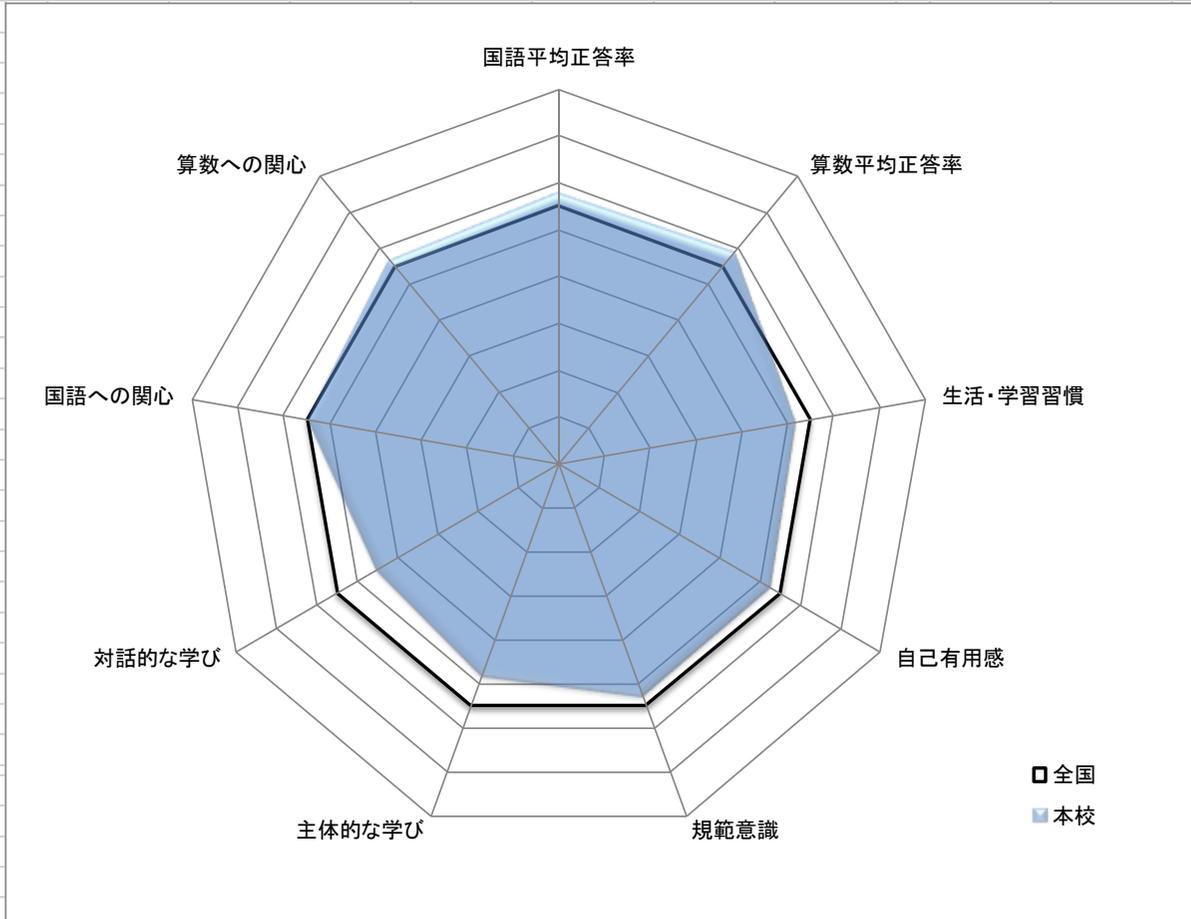


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・国語と算数の学習面においては、正答率が全国平均より上回っており、基礎・基本の学力が定着している。
- ・国語と算数への関心も全国平均より同じか上回っている。
- ・学力が身に付いているが、対話的な学びや主体的な学びについての肯定的な回答が、全国平均より少ない。
- ・規範意識や自己有用感、生活・学習習慣への肯定的な回答も、全国平均よりやや少ない。

《授業改善のポイント》

- ・学習への関心があり、基礎的・基本的な内容が身に付いているので、今後は、授業においてさらに、主体的で対話的で深い学びとなるよう授業改善をすることが求められている。
- ・自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発表する学習を実践していく必要がある。
- ・学級活動において、学級での話し合いを活かして、今、自分が努力すべきことを自分で決めて取り組んでいく学習を積み重ねていく必要がある。

《チャートの特徴》

【学習面】

- ・国語と算数の平均正答率は、それぞれ、1.06、1.07全国より上回っている。
- ・算数への関心は、全国の平均より1.02上回っている。
- ・国語への関心は、全国の平均とほぼ同じである。(0.99)

【情意面】

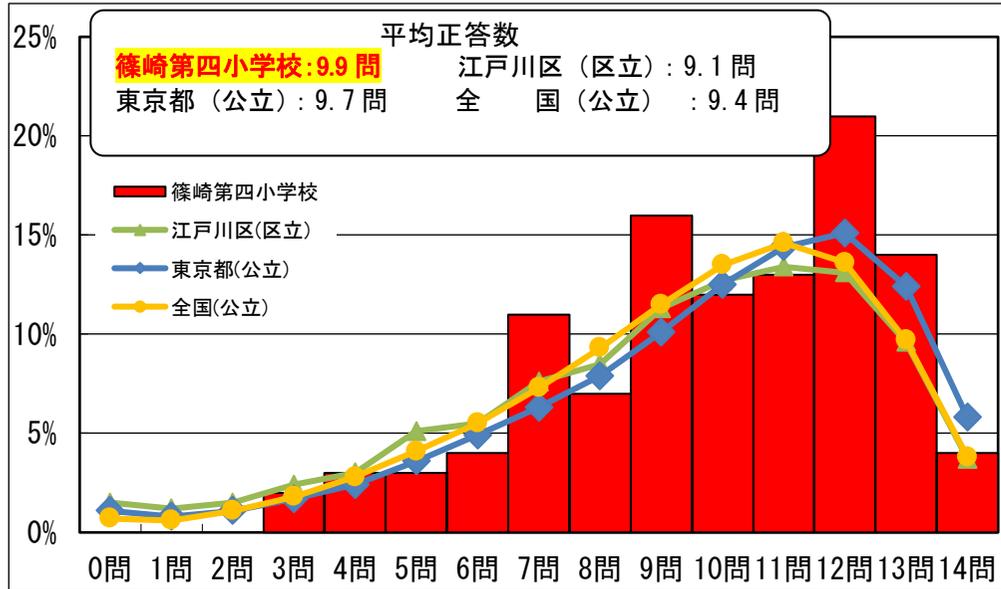
- ・対話的な学びに関して、肯定的な回答が全国より下回っている。(0.8)
- ・主体的な学びに関しての肯定的な回答が、全国より下回っている。(0.86)

《家庭・地域への働きかけ》

- ・児童が、将来の夢や目標をもつことができるようにする機会をつくる。
- ・家庭で学校の授業の予習や復習等について、児童の発達段階に応じて、自分で計画を立てて勉強をする習慣を身に付けさせる。
- ・保護者会やホームページ上で児童の実態について公表し学校と家庭との連携した取組や改善策を示していく。

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 篠崎第四小学校

正答数分布



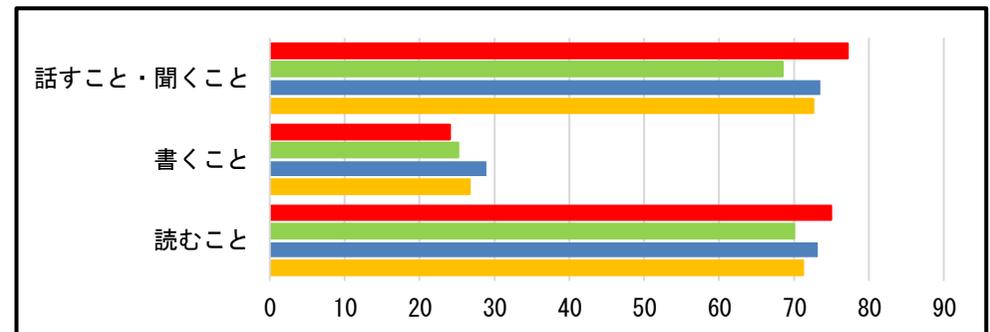
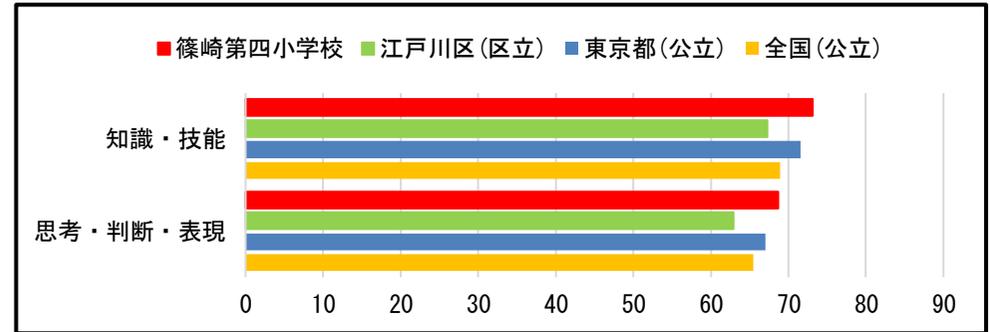
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	【平均正答率の差】			
	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
篠崎第四小学校	36.1	23.1	21.3	21.3
江戸川区(区立)	26.4	26.1	19.8	27.7
東京都(公立)	33.3	26.9	18.0	21.8
全国(公立)	27.1	28.1	20.8	24.0
			都との差	+2ポイント
				%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

【分析結果】

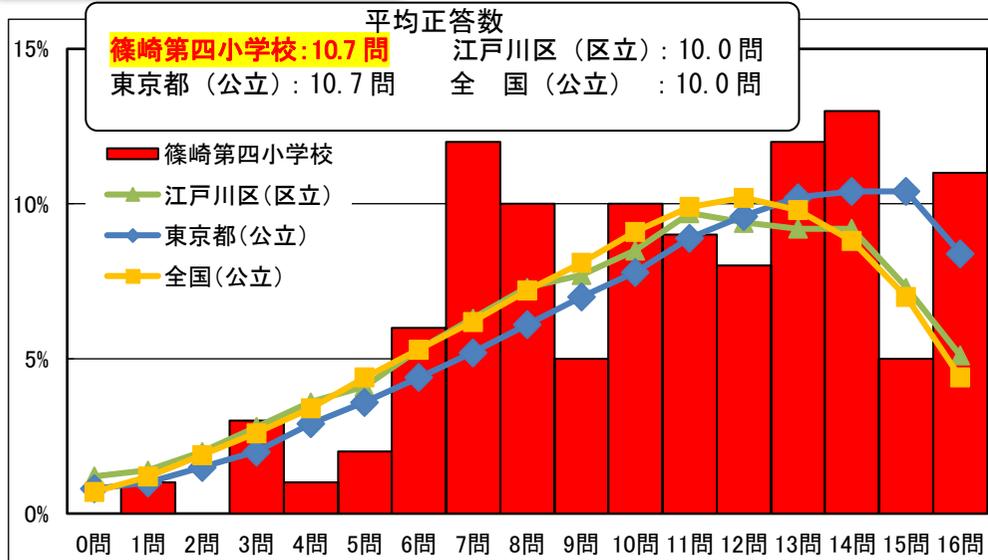
- ・ほとんどの領域において、全国と東京都を上回った。
- ・「書くこと」では、全国と東京都の平均を下回った。

【授業改善に向けて】

- ・自分の考えを伝えるために、図表やグラフなどを用いて書き表す活動を通して「書くこと」の力を育成する。
- ・児童が自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表する機会を増やす。

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 篠崎第四小学校

正答数分布

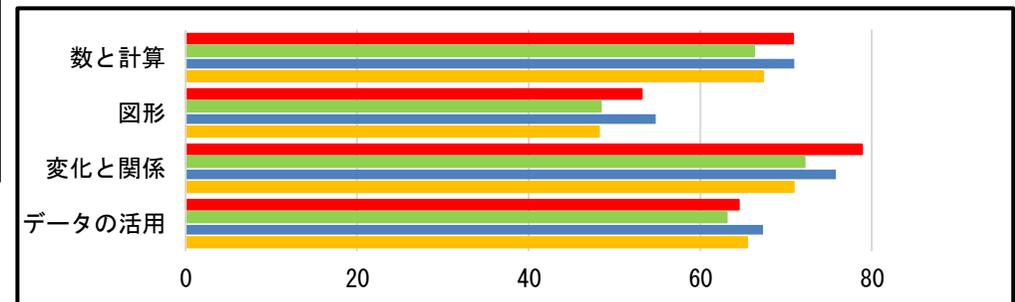
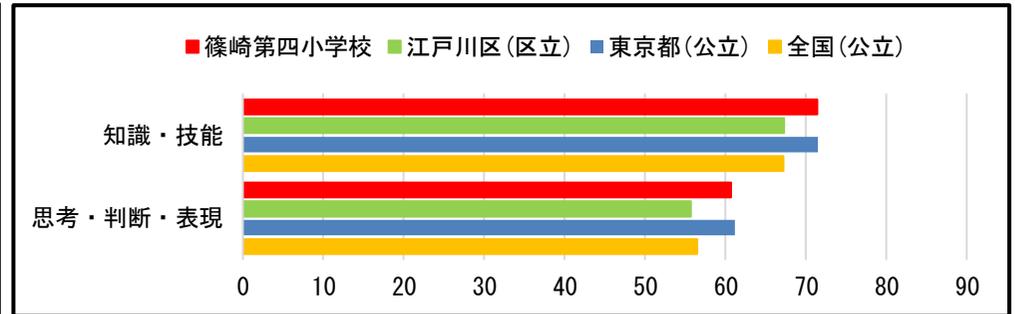


<四分位における割合(都全体の四分位による)>

算数	上位 ← → 下位			
	A層 14~16問	B層 11~13問	C層 8~10問	D層 0~7問
篠崎第四小学校	41.7	26.9	23.1	23.1
江戸川区(区立)	21.6	28.3	23.5	26.6
東京都(公立)	29.2	28.7	20.9	21.2
全国(公立)	20.2	29.9	24.4	25.5

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

篠崎第四小学校	67%
江戸川区(区立)	62%
東京都(公立)	67%
全国(公立)	62.5%
都との差	±0ポイント

【分析結果と授業改善に向けて】

【分析結果】

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」では、東京都の平均正答率より0.1、0.5ポイント低かった。
- ・「変化と関係」では、東京都より3.1ポイント高かった。これ以外の領域では、東京都の平均より低かった。
- ・四分位においてA層の児童の割合が高く、B層の割合が、若干低くなっている。
- ・C、D層は東京都よりも割合が多くなっている。

【授業改善に向けて】

- ・課題解決の場面で、自分の考えが伝わるよう図や式などを分かりやすく提示して発表する学習を多くする。
- ・C、D層の児童に対して、間違いやすい領域を繰り返し指導することで、C、D層の底上げを今後も意識して行っていく。